

令和6年8月20日開催

保健医療・子ども家庭支援等福祉対策特別委員会

委員 長 報 告

令和6年9月定例会

委員 長 松 本 進

去る8月20日に開催されました当委員会の審査概要について、順次ご報告申し上げます。

初めに、報告事項の1「新型コロナウイルスワクチン接種の振り返りと今後の定期接種について」報告を求めましたところ、次のような説明をいたしました。

これまでの取り組みとしては、令和3年2月中旬の接種開始以降、1日でも早くより多くの市民に接種ができるよう接種券の発行に努め、医療機関の協力を得るとともに、県内最大規模となる集団接種会場を運営するなど、接種体制の構築を進めたとのこと。

接種状況については、1回目の接種から7回目の接種までを、令和3年2月中旬から令和6年3月末までの期間で実施し、接種対象者の条件を年齢等で分け、令和6年3月末時点で、1回目接種は47万6,023回で、接種率は78.7パーセント、うち65歳以上の高齢者は13万870回で、接種率は96.5パーセントとなり、2回目以降も同様に高齢者の接種率は高かったとのこと。

接種体制については、集団接種は、旧そごう川口店、鳩ヶ谷庁舎「こども夜間救急診療所」、第一本庁舎「多目的スペース」、イオンモール川口「イオンホール」及びイオンモール川口前川「サイボーホール」等を会場として期間を設けて実施し、個別接種は、市内222か所の個別医療機関で実施したとのこと。

今後の取り組みについては、本ワクチン接種が令和6年度から予防接種法上のB類疾病に位置づけられたことから、季節性インフルエンザと同様の定期接種として実施し、65歳以上等の対象者は接種費用の一部を負担することで接種が可能となるほか、定期接種以外で接種を希望する場合は、時期を問わず自費で任意接種が行えるとのことでありました。

以上のような説明に対して、定期接種における費用負担の内訳について問われ、これに対して、厚生労働省から示されている接種費用15,300円のうち、国費が8,300円、市費が4,000円、自己負担額が3,000円となる予定であるとのことでありました。

このほか、これまでの経験を踏まえ、今後の感染症流行に備えた大規模接種会場の検討状況について等、質疑応答の後、本報告を終了いたしました。

最後に、報告事項の2「『川口市立医療センター経営改革プラン2021—2023』の評価結果について」報告を求めましたところ、次のような説明をいたしました。

医療センターにおいては、総務省からの公立病院改革推進の要請に基づき、「川口市立医療センター経営改革プラン2021—2023」を策定し、計画期間である令和3年度から令和5年度までの間、基本理念や目指す姿の実現に

向けて取り組んできたとのこと。

本計画における評価総括としては、ベッド回転率及び平均在院日数は、入院期間の適正化の取り組み等により、令和4年度及び令和5年度は計画値を上回り、また、入院単価は、令和5年度に減少していたものの、新型コロナウイルス感染症に係る特例加算等の影響もあり、各年度ともに計画値を上回ったとのこと。

新入院患者数や手術件数は、感染対策により病床数を制限していたことから、各年度ともに計画値には達しなかった。また、紹介患者や救急患者が増加傾向であるなかで、外来患者数は減少しているとのこと。

経常収支は、新型コロナウイルス感染症補助金の縮小等の影響により、令和4年度及び令和5年度は赤字となり、医業収益は、各年度ともに計画値に達しなかったとのこと。

今後の計画としては、令和6年度から開始した「川口市立医療センター経営強化プラン2024－2027」で掲げた取り組みを実現することで、急性期・高度急性期医療の確実な提供と継続的な健全経営に努めていくとのことでありました。

以上のような説明に対して、手術件数にかかわり、手術支援ロボットであるダビンチXiを導入したことによる効果について等、質疑応答の後、本報告を終了し、委員会審査を終了した次第であります。

以上で報告を終わります。